

# 交渉速報

J R 貨物労組中央本部業務部

2020年2月28日

No.11

**会社：10年後には他社がうらやむ人事制度にしたつもりである**  
**組合：まず今頑張っている人に投資するべきである**  
**バア実施しなければ10年後を見据えた人材確保はできない！！**

## ～2020JR総連春闘 第3回交渉報告～

中央本部は本日、第3回交渉を行ない、今次春闘における要求の根拠について主張しました。要求の根拠は以下の通りです。

- (1) 台風被害による迂回運転やトラック代行輸送の構内誘導などの臨時作業、また、支社間をまたぐ行路の持ち替えなどに対応し、組合員は収入確保を懸命に行なってきた。
- (2) 中期経営計画の最終年度で経常黒字140億円以上をめざしているが、職場の組合員にはその実感が伝わらない。組合員と会社経営陣との感覚はかけ離れている。全国の職場では若年退職者が後を絶たず、「人事制度に対する不安」「低賃金」「将来展望への不安」など会社の魅力は感じられなくなっている。
- (3) 関連会社も含めて要員不足が慢性化しており状況は改善されていない。また、職場の老朽化した設備の改善も依然として進んでいない。会社はグループ経営を重点的に推し進めているが、採用しても一人前になる前に退職してしまう。
- (4) 今春闘は人事制度が変更となって初めての春闘であり、賃金表が廃止され昇給表による昇給となった。ベースアップは基本給に対して上げることと、ベースが上がった分は「職群別基本給表」「基準額」「最低額」「年齢保障給表」も改善していく必要がある。契約社員や臨時社員の昇給額が下がることが予想されるため2.23%の賃上げを要求した。もっとも重要なことは家族手当が基準外賃金となって弊害が生じている。組合員の強い要望である家族手当を基準内賃金とすることを強く要求する。
- (5) 貨物会社は他企業に比べて賃金が低い。昨年10月から消費税が10%に引き上げられ、国民負担率が44.6%になる見通しだと試算されている。また、ガソリンや灯油などの燃料費の高騰や食料用品の値上げとにより可処分所得は減少し、家計はますますひっ迫している。
- (6) 台風19号等の被害があり計画未達として1月期改定で鉄道事業営業収支を△26億円に下方修正したが、その一方で経常利益は68億円の黒字を計画している。計画が達成できるのであれば支払い能力は十分にあるということである。
- (7) 改めて、この間の真面目に努力してきた組合員の努力と苦勞に報いるよう、そして生き生きと働き甲斐のある会社にするためベースアップ6,000円の実施と諸要求改善を強く要求する。

貨物労組の要求の根拠に対して会社は、「貨物労組の要求の根拠を真摯に受け止め、社内で議論をしていく」とし、以下のように回答しました。

- 【1】 家族手当が基準外賃金となったことで手取りが目減りしている組合員がいることは認識した。しかし、60歳まで賃金上がる制度であり生涯賃金は増える制度である。
- 【2】 今年度は旧人事制度の賃金をそのまま移行したが、来年度から3年間にわたる賃金の移行が始まる。離職率が上昇している中で、若年退職に対して何とかしなければならないと思っている。
- 【3】 鉄道事業部門の黒字化は必達であり、人事制度における不安や不満は早期に払拭できるように取り組んでいく。貴組合から今春闘における要求の根拠とこだわりについて認識した。そのことを踏まえ会社として総合的に判断し、次回交渉で会社の考え方を示したい。

会社の回答に対し中央本部は、

- (1) 世の中の会社は人材確保のために賃金を上げている企業が増えているが、貨物会社は19年間のベアゼロもあり人事賃金制度を変更しても低い水準のままである。そのため、賃金の高い企業への転職が発生しているのが現実である。
- (2) 組合員の切実な要望である家族手当の基準内賃金化にはこだわる。家族手当は扶養家族が対象である上に、子供は22歳までと限定的であり、経営的に大きな負担にはならないと考える。
- (3) 今年度の鉄道事業部門は赤字だが、経常利益は黒字であり、組合員は支払い能力があると見ている。また、次年度以降も鉄道事業部門の黒字が必達とするのであれば、ベアが出せない理由にはならない。
- (4) 今は働く側が会社を選択する時代である。職場は要員が満たされず乗務員へ要員を送り出すことが困難となっているのが実態である。貨物労組は人材への投資としてベア実施を求める。会社は組合員の声に耳を傾け英断すること。

以上のことを主張しました。そして、本日の議論を真摯に受け止め、諸要求の実施を含めた回答を示すことを通告し第3回の交渉を終了しました。

組合員のみなさん！私たちの切実な要求の重みを会社経営陣に受け止めさせるために、全組合員が一丸となって職場から創造した闘いをつくりだしていこうではありませんか！

2月28日の第3回交渉以降、闘争ゾーンに入ります。ベア獲得と諸要求の実現にむけて、全ての職場から切実な声を結集させましょう。中央本部は、その最先頭で奮闘していくことを申し上げ第3回交渉報告とします。

以 上

次回、第4回交渉は3月6日（金）です。